ふも心の儘なれども、左樣のをごりけることはせぬもの也とて怒られしとぞ、

〔利家夜話下〕一太閤樣〔豐臣秀吉〕御他界之儀、いつともなしに知らせ申間敷由上意にて、五奉行衆誓紙をかゝれ申候由に候、石田治部其判を仕たる手にて、宿へ用所有之とて、次之間へ出狀箱を求、書狀認入、利家へ御知せ申上候、爲御心得申進候由なり、大納言樣〔前田利家〕いつもの通御使者被上御機嫌伺候處に、淺野彈正殿御返事に、御他界被成候て晝の事なるに、今朝も割粥を被召上候由申參候、〔略〕

〔和歌食物本草二穀〕破粥〔略〕　破粥をあさとく一度食すれば胃のふ潤ししん益をます　破粥をおほく食すな腹ふくれ小便しげくよるもねられず

〔名物六帖飲膳〕茗粥〔チヤガイ〕

〔類聚名物考飲食一〕茶粥　ちやがゆ

茶經下傳咸司隸敎曰、聞南方有以困蜀嫗作茶粥賣、爲簾事、打破其器具、又賣餅於市、而禁茶粥、以蜀姥何哉

〔俚言集覽知〕茶粥　上方にて朝々は、茶がゆとて、よんべの茶を煮かへして、よんべの殘りの飯を入て喰ふとなり、

〔日用助食〕竈の賑ひ〕茶粥

右白かゆを焚ごとく、水の澄ざる位に米を洗ひて、先茶を煎じ出し、其茶にて右白かゆの水かげんにして、鹽を程よく入たくべし、〔略〕

京大坂堺邊の町家にては、年中朝は此茶がゆを食せり、米の助となる事、積りては大ひなり、又儉約のみにあらず、食しなれては腹中をすかし、溜飲等の病ひをなからしめ、却て藥となりて食しなるればよきもの也、